

特別・合同シンポジウム（第10回 貴金属シンポ） 貴金属の製錬・リサイクル技術の最前線

東京大学生産技術研究所 非鉄金属資源循環工学寄付研究部門（JX 金属寄付ユニット）、
東京大学生産技術研究所 持続型材料エネルギーインテグレーション研究センター、
レアメタル研究会（第104回レアメタル研究会）による
特別・合同シンポジウム

- 協 力： （一財）生産技術研究奨励会（特別研究会 RC-40）
- 共 催： 東京大学マテリアル工学セミナー
レアメタルの環境調和型リサイクル技術の開発研究会
- 協 賛： （一社）軽金属学会、（一社）資源・素材学会、（一社）新金属協会、
（公社）日本化学会、（公社）日本金属学会、（一社）日本鉄鋼協会（五十音順）
- 開催場所： リアル講演会+講演のネット配信（Zoom Webinar+YouTube）
のハイブリッド形式
（コロナウイルス感染状況によってはオンラインのみに変更となる可能性有）
- 参加登録・お問い合わせ： 岡部研 学術専門職員 宮崎 智子（E-mail: okabelab@iis.u-tokyo.ac.jp）
- 会 費： 参加費 無料
資料代 【今回は代金を頂きませんので、寄付をご検討ください。】

- 2023年1月6日(金) 東京大学 生産技術研究所 An棟 2F コンベンションホール
および Zoom Webinar+YouTube

テーマ： 貴金属の製錬・リサイクル
14:00 ~ 講演会
18:00 ~ 意見交換会（+新年会） 開催未定

(2022.11.1 現在)

■ 貴金属の製錬・リサイクル技術の最前線（貴金属シンポジウム）について

本シンポジウムは、貴金属の最新の製錬・リサイクル技術に焦点を当てて企画された講演会であり、2014年から毎年開催しています。白金族金属をはじめとする貴金属は環境・省エネ製品に必須の非鉄金属であり、その需要は近年より一層高まることが予想されます。

第1回（2014年1月10日（金））から参加者は200名を超え、例年徐々に増加し、第4回（2017年1月6日（金））以降は、常に270名を超える参加者があり、貴金属の製錬やリサイクルに関する最新技術への関心の高さがうかがえる会となっています。

2022年1月7日（金）に開催された第9回のシンポジウムでは、現地での講演会とZoomを利用する講演のネット配信のハイブリッド形式で5件の講演が行なわれました。貴金属の製錬・リサイクル技術への関心は非常に高く、非鉄金属関連企業・リサイクル関連企業を中心に約500名が参加し、活発な議論が交わされ大変盛況な会となりました。

記念すべき第10回を迎えた今回のシンポジウム（2023年1月6日（金））の詳細は次ページをご覧ください。



第 10 回 貴金属シンポジウム 2023 年 1 月 6 日 (金) 14:00～

■ 講演会プログラム【敬称略】 ★プログラムの順番等に変更する可能性があります★

司会	東京大学 生産技術研究所 非鉄金属資源循環工学寄付研究部門 特任教授	黒川 晴正
14:00 - 14:10	開会の挨拶 東京大学 生産技術研究所 所長、教授	岡部 徹
14:10 - 14:40	PGM 回収方法の検討 (仮) 三菱マテリアル株式会社 イノベーションセンター分離精製領域 主任研究員	仲家 新太郎
14:40 - 15:10	貴金属湿式回収プロセスでの金還元工程の改善について 住友金属鉱山株式会社 金属事業本部東予工場 精金課課長	土岐 典久
15:10 - 15:20	休憩	
司会	東京大学 生産技術研究所 非鉄金属資源循環工学寄付研究部門 特任講師	大内 隆成
15:20 - 15:50	JX 金属の銀回収プロセスについて (仮) JX 金属株式会社 日立工場 HMC 製造部長	平出 正幸
15:50 - 16:20	環境・エネルギー関連触媒への取り組み (仮) 田中貴金属工業株式会社 市川工場 触媒開発セクション チーフマネージャー	菊原 俊司
16:20 - 16:50	小規模金採掘精錬 (ASGM) における水銀の消費と密輸フローの検出 千葉大学大学院 工学研究院 先進理化学専攻 共生応用化学コース 助教	吉村 彰大
16:50 - 17:00	閉会の挨拶 東京大学 生産技術研究所 非鉄金属資源循環工学寄付研究部門 特任教授	所 千晴
17:30 -	研究交流会・意見交換会 (開催未定)	

レアメタル研究会ホームページ URL :

https://www.okabe.iis.u-tokyo.ac.jp/japanese/rc40_j.html

東京大学基金 :

★貴金属研究・若手育成支援基金★ <https://utf.u-tokyo.ac.jp/project/pjt112>

を立ち上げました。

少額でも構いませんので、できるだけ多くの皆様からの「継続的なご寄付」をお待ちしております。
